

平成29年度 伊勢崎市立あずま中学校 学校評価一覧表 ②

羅 針 盤			自己評価 (総合)	学校関係 者評価	学校関係者評価委員の意見	今後に向けての学校の考え
評価対象	評価項目	具体的数値項目				
I 保護者等との連携	1 学校や生徒の様子を保護者に伝え、理解を得ていますか。	①保護者の80%以上が、学校や子どもの様子が分かると答えている。	A	A	○行事等が行われてすぐにブログが更新されるなど、積極的に保護者に伝えている。	○WEBページ・ブログや学校・学年・学級通信、懇談会等を通して、生徒の学校生活の様子等を保護者に積極的に伝えていく。
	2 保護者は学校の諸行事に参加していますか。	②保護者の80%以上が、学校やPTAの諸活動に年2回以上参加している。	A	A		○行事関係の案内を確実に届け、講演会や懇談会等では保護者の関心が高いテーマを設定する。また、学校・学年・学級通信や携帯メール等を通して行事の案内を行う。
	3 保護者は、学校に連絡や相談がしやすいと思っていますか。	③保護者の80%以上が、学校に連絡や相談がしやすいと答えている。	B	B	○生徒の諸問題は、電話連絡や家庭訪問等を行い減少させていくことが大切である。校長や副校長、教頭も含め、組織的に行ってほしい。	○電話連絡や家庭訪問等、丁寧・親身な対応を行うことにより、保護者との信頼関係を深める。また、保護者アンケート等による保護者の要望や意見を汲み取って学校の態勢を改善するとともに、懇談会や保護者会など様々な機会を通して保護者に理解を求めていく。さらに、スクールカウンセリングの受け方の周知や相談の仕方など具的的な方法を保護者に伝える。
II 確かな学力	4 生徒は、授業が分かり、満足感や達成感を味わっていますか。	①生徒の80%以上が、授業が分かり、満足感や達成感を持っている。	A	A		○グループ活動を積極的に取り入れ、達成感が味わえるように授業の改善・工夫を行う。また、授業のねらいとまとめの明確化を継続して実践し、生徒の主体的な学習を促して満足感や達成感を引き出す。
	5 生徒に、教科等の基礎・基本が確実に身に付いていますか。	②教師の80%以上が、生徒が教科等の基礎・基本を身に付けていると感じている。	A	A		○生徒一人一人の学習状況をよく把握し、評価を生かした学習指導を工夫する。学習コンテンツを学期ごとに実施する。また、火から金曜日の英数放課後補習や夏季休業中の習熟度別補習を実施する。
	6 生徒は、粘り強く学習に取り組んでいますか。	③生徒の80%以上が、学習に粘り強く取り組んでいると感じている。	B	B		○授業の中でじっくりと考える課題を設け、考える時間を確保する。道徳では、自分自身に関することの価値項目の指導を充実させる(自主・自律や強い意思等)。また、あきらめさせない指導の工夫(個別指導や再チャレンジの場の設定等)を行う。さらに、授業の中でつまづいている生徒に対して、学び合いやヒントなどの指導の工夫を行う。
	7 生徒は、友達との意見交流を通して自分の考えを明らかにし、伝えることができますか。	④生徒の80%以上が、友達との意見交流を通して、自分の考えを明らかにし、伝えることができていると感じている。	B	B		○グループ活動を積極的に取り入れ、意見交流を図る。また、自分の考えを記述させ、発表するの場をできるだけ多く設ける。
	8 家庭で自主的に学習や読書をする習慣が生徒に身に付いていますか。	⑤生徒の60%以上が、週平均して1日2時間以上家庭学習をしている。	C	C	○家庭にも学習環境を整えるよう学校から啓発して行くことも重要である。	○家庭学習の手引きを活用させる。また、リーフレットで啓発していく。計画的な宿題を継続し、学習時間の増加と学習内容の充実を推進する。さらに、図書館教育の計画に基づく読書教育を一層推進する。学校通信等を通して、家庭学習時間に関する本校の実態を示しながら家庭学習時間の増加を促す。
	9 進んであいさつをする生徒が育っていますか。	①生徒の80%以上が、進んであいさつをしている。	A	A		○生徒会のAZM活動を通して、気持ちを込めた礼儀正しいあいさつの徹底を図る。家庭や地域にも協力を要請してあいさつの輪を広げる。
III 豊かな心	10 生徒は、学校の一員としての自己有用感を感じていますか。	②生徒の80%以上が、学校の一員としての自己有用感を感じている。	B	B		○生活ノートの点検や教職員の情報交換を密にし、生徒の様子を多面的に理解する。また、生徒の自己存在感や自己有用感が高まる活動(学校行事や委員会活動等のAZM活動)や授業を工夫する。学校通信等で、生徒の活躍を紹介することで、学校の一員として役立っていることを意識させる。
	11 いじめのない学校づくりのために取り組んでいますか。	③生徒の80%以上が、学校は悩みやいじめの解消に努めていると答えている。	A	A		○いじめ防止基本方針に基づき、毎月いじめ調査を実施するなど、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。また、生徒との信頼関係の構築に努め、相談しやすい雰囲気づくりを行う。

	12 学校のきまりや約束を守って生活する生徒が育っていますか。	④生徒の80%以上が、学校のきまりや約束を守って生活している。	A	A		○規範意識の確立に向けた指導を全職員で確認して、共通理解の下に推進する。特に、授業中の学習規律の徹底を図る。
	13 生徒は、家族の一員としての役割を持って生活していますか。	⑤生徒の80%以上が、家庭で手伝いをしている。	B	B		○家庭への啓発を継続するとともに、学級指導や清掃指導等を通して働く喜びを味わわせる。また、家庭科や特別活動の授業と関連させて家事手伝いの機会を増やし、家庭にも協力を求める。学級懇談会で、家族の一員としての役割を話し合う機会を設ける。
	14 各教員は、生徒の間違った行動について適切に指導していますか。	⑥教職員の90%以上が、各職員が同一歩調で生徒の指導を行っていると感じている。	A	A		○一貫した指導とするために、些細な出来事であっても共通理解を図り、迅速かつ的確な指導に当たる。また、間違った行動を見逃さず、毅然とした態度で指導する。
IV 健康・体力	15 生徒は毎日朝食をとって登校していますか。	①生徒の80%以上が、毎日朝食をとっている。	A	A		○基本的な生活習慣の確立と学力向上との相関を知らせて、家庭での指導を呼びかける。
	16 生徒は十分な睡眠をとって生活していますか。	②生徒の80%以上が、1日6～9時間の睡眠時間をとっている。	A	A	○質のよい睡眠が重要である。9時間は部活等を考えるとなかなかとれないであろう。	○基本的な生活習慣の確立と学力向上との相関を知らせて、家庭での指導を呼びかける。
	17 健康で体力のある体をつくらうとする生徒が育っていますか。	③生徒の80%以上が、運動や地域のスポーツ活動などに取り組んでいる。	A	A		○体育の授業や体育的行事、部活動を通して運動の楽しさを味わわせ、運動が好きな生徒を育てる。部活動引退後の3年生に対する指導や、冬季の運動不足解消を目指した取組を検討する。
V 安全確保・施設設備	18 学校の施設・設備は安全ですか。	①教職員の90%以上が、学校の施設・設備が安全であると感じている。	A	A		○安全点検は2名以上の複数で実施し、見落としがないように留意する。また、平素の点検を通して故障、破損は早期に修理する。
	19 交通事故防止、火災・地震・不審者対策など、安全教育の徹底を図っていますか。	②安全(危機)管理マニュアルを確認して、シミュレーションを年2回以上実施している。	A	A	○暗い道路を通っての帰宅や並列走行などは、改善していく必要がある。	○実効性のある避難訓練を計画的に実施し、事前・事後指導の徹底を図る。また、自転車点検、交通安全教室、登下校指導等を通して交通事故防止の徹底を図る。
	20 学校・家庭・地域は連携して、交通安全指導や通学路の点検・パトロールを行っていますか。	③家庭・地域と連携して、交通安全指導や通学路点検、校外パトロールを月2回以上行っている。	A	A	○パトロールした結果などから分かった危険箇所は、生徒・保護者に積極的に連絡することが大切である。	○校区内の道路状況を把握し、状況の変化を生徒・保護者に知らせて安全確保に努める。また、登下校時の指導や校外パトロールをPTAと協力して計画的に実施する。
VI 進路・生き方	21 自らの将来の夢や希望について考えられる生徒が育っていますか。	①生徒の80%以上が、学級活動における進路学習や啓発的な体験活動を通して自己の生き方を考えている。	B	B		○進路学習の系統性を高めて学習活動の充実を図るとともに、夢や希望についての教育相談の充実を図る。また、将来の夢や希望と普段の生活を結び付けて意識させ、進路学習や教育相談の機会に個別に指導する。
	22 親子で生徒の進路について話し合いを行っていますか。	②生徒の80%以上が、将来の夢や希望する進路について親子で年2回以上話し合っている。	B	B	○日常の会話の中で、生徒の意識を向上していくことが大切であろう。	○進路に関する情報を積極的に提供するとともに、家族で話し合っ考える進路学習を工夫する。また、未来シート(進路学習用紙)に保護者にも記入してもらうなど、将来の夢や希望する進路について親子で話し合う機会を増やす。
VII 組織運営	23 学校の教育目標の達成に向け、管理職・教職員が一体となって努力していますか。	①管理職・教職員の95%以上が、学校教育目標の達成に向けて一体となって努力している。	B	B		○学校の教育活動全般について職員会議等の場を通して共通理解し、全職員が一体となって教育活動に取り組む。また、自己申告書の業績評価の内容を教職員が意識するとともに、その実現に向け努力していく。
	24 日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係を作ろうにしていますか。	②教職員の90%以上が、気軽に相談できる職場環境ができていると感じている。	A	A		○日常の教育実践を職員室内で話題にできる雰囲気作りに努める。また、発生した課題に対して早期対応ができるよう、情報交換を密に行う。

25 教職員は、設定した自己目標の達成に向け、主体的に日常の教育実践に取り組んでいますか。	③教職員の90%以上が、自己申告書の目標達成に向けて十分に取り組んでいる。	A	A		○管理職や教職員との面談や懇談を通して設定した自己目標を確認し合い、達成に向けてより具体的な方策を検討して日々の教育実践に励む。
26 職員会議が、校長の経営方針を踏まえた情報交換や課題検討の場として機能していますか。	④教職員の90%以上が、職員会議は校長の経営方針を踏まえた課題検討や情報交換の場として十分に機能していると感じている。	B	B		○運営委員会を活用してスムーズな職員会議の運営に努める。また、会議の充実と時間短縮のため、資料の事前配布やパソコンの掲示板活用を励行する。また、職員会議で検討すべき課題や共通理解が必要な情報を明確にし、十分な時間を確保して会議を運営する。さらに、学年会議等で職員の意見を集約し、十分に機能していない部分について検討し改善する。経営方針の確認を行うとともに、職員会議における検討内容を提案者は明確にして臨むようにする。
27 PDCAサイクルを確立して学校評価を行い、改善策を具体化していますか。	⑤学校評価結果を踏まえた改善策の90%以上が具体化されている。	A	A		○校務分掌ごとに分担して改善策を検討し、職員会議で具体化した改善策を共通理解して実践していく。
28 適材適所を配慮して校務分掌が組織され、機能していますか。	⑥教職員の90%以上が、校務分掌は十分に機能していると感じている。	B	B		○適材適所で組織した各分掌において、職員がその責任を全うできるように協働態勢で取り組む。また、分掌間の連携を図って組織の機能を高める。仕事の内容や分担の現状を再点検し、効率化・スリム化を図る。さらに、自己申告書の目標と関連させて分掌の仕事に取り組めるよう配慮する。分業と組織的な取組の重要性を職員が再度意識するとともに、一度決められた決定事項は遵守するよう自覚する。
29 校内服務規律委員会を定期的に開催し、常に教職員の服務規律の確保に努めていますか。	⑦教職員の100%が服務規律を遵守している。	B	B		○服務規律に関する自己チェックリストで定期的に点検したり、本校の規律確保行動計画を作成して全職員で取り組んだりするなど、職員一人一人の意識を高めて服務規律の徹底を図る。
30 各教科部会等での話し合いで年間指導計画を作成し、理解をして取り組んでいますか。	⑧教職員の100%が年間指導計画に基づいて指導している。	B	B		○年度初めの各教科・領域部会で年間指導計画について検討し、修正を加えながらより良い教育活動を実施する。
31 校内研修は、教師の資質向上と授業改善に結び付いていますか。	⑨教職員の90%以上が、校内研修を資質向上と授業改善に生かしている。	A	A	○校内研修内で、訪問者に対する接遇や電話対応などの資質向上の研修も必要であろう。	○学校全体での研修、教科部会などの組織での研修等に主体的に取り組む。また、年3回の代表教諭の公開授業での研修を全員参加で行う。
32 校内研修組織を整備し、見通しを持って効果的に研修を実施していますか。	⑩教職員の90%以上が、校内研修は組織的・計画的に実施されていると感じている。	A	A		○研修が円滑に進められるように、必要に応じて組織を柔軟に編成する。また、研修推進上の課題については、研修推進委員会で早期に対応して改善する。
33 各種文書・データ等は、分掌や担当ごとに適切に管理されていますか。	⑪各種文書・データ等は、分掌や担当によって100%適切に管理されている。	B	B		○サーバーの共有フォルダを年度更新とし利便性を高める。校内のルールに従って文書やデータの管理を徹底させる。また、フォルダのよりわかりやすい分類方法等を取り入れる。
34 個人情報に確実に保護されるよう、管理が徹底されていますか。	⑫個人情報は100%適切に保護・管理されている。	B	B	○個人情報の保護・管理は学校として徹底してほしい。特に持ち出しには注意が必要である。	○個人情報の取り扱いについて共通理解し、書庫の活用やパスワードの設定など工夫して管理する。また、個人情報の申し合わせ事項を再度確認するとともに、漏洩による本人及び学校への影響を確認する。
35 教育活動の必要な場面で、地域の教育力を効果的に活用していますか。	⑬教職員の90%以上が、地域の教育力を必要に応じて有効に活用していると感じている。	A	A		○登録者名簿を活用して人材を確保し、人材を効果的に生かす教育活動を工夫して実践する。また、地域の区長会やPTA役員と連携して人材を広く募るとともに、地域の人材を活用した教育活動の範囲を検討して広げる。「未来力」学習講座やふるさと学習などで地域の人材を積極的に活用する